

主要産地における令和3年産水稲の生育状況等について 第7報 (7月9日取り纏め)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 (令和3年7月9日)

| 道府県 | 生育状況等 | | 技術・防除・気象等関連公表資料(自治体、気象台等公表資料の抜粋) | (参考) |
|-----|-------|---|--|--|
| | 区分 | 育苗・田植進行状況・生育状況等(自治体等公表資料の抜粋) 平年に対する遅速等 | | |
| 北海道 | | 【生育状況(7月1日現在)】 (全道)生育は平年並に進んでいる。(北海道農政課 7月7日付) (空知)生育は平年並である。(空知総合振興局 7月7日付) (石狩)好天により生育は進んだ。(石狩振興局 7月7日付) (後志)遅速は早1日。(後志総合振興局 7月7日付) (胆振)生育は平年並。(胆振総合振興局 7月7日付) (日高)生育は順調に進んでいる。(日高総合振興局 7月7日付) (渡島)生育は順調である。(渡島総合振興局 7月7日付) (檜山)生育はやや早い。(檜山振興局 7月7日付) (上川)生育の遅速は、平年並に推移している。(上川総合振興局 7月7日付) (留萌)生育は平年並に進んでいる。(留萌振興局 7月7日付) (オホーツク)高温多湿により生育は進んだ。生育は平年並である。(オホーツク総合振興局 7月7日付) | 【向こう1か月の天候の見通し 7月10日~8月9日】 北海道地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁札幌管区気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 7月~9月】 北海道地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁札幌管区気象台) | ・「なつぼし」及び「ゆめびりか」を中心とする品種構成となっており、主要品種に大きな変化はみられない。 (農林水産省 3月23日) (出典資料は以下同じ) |
| | (生育) | | ・稲こげ病の発生が「多い」と予想される。 (農林水産省 7月7日付) | |
| 青森 | | 【6月30日現在】 ・平年と比較して、「つがるロマン」、「まっしぐら」とともに草丈はかなり長く、茎数はかなり多く、葉数はやや多くなっている。葉数からみれば生育遅度は、平年より4日程度進んでいる。 ・出穂期は、「まっしぐら」は津軽地域が7月31日~8月11日頃、県南地域が7月31日~8月17日頃、「つがるロマン」は津軽地域、県南地域ともに8月2日頃からと予想される。 (青森県 7月5日付) | 【向こう1か月の天候の見通し 7月10日~8月9日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 7月~9月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台) | ・「つがるロマン」及び「まっしぐら」の2品種で9割を占める品種構成で、近年、収量水準の高い「まっしぐら」が増加傾向にあり令和3年産も同様の傾向になるものと考えられる。 (農林水産省 7月7日付) |
| | (生育) | | ・斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。 (北東北) (農林水産省 7月7日付) | |
| 岩手 | | 【6月15日調査】 ・6月15日現在の生育(県平均)は、草丈31.7センチメートル(平年+1.6cm)、茎数は304本/平方メートル(平年比119%)、葉数は7.0葉で平年より0.3葉多い。 (岩手県 6月24日付) | 【向こう1か月の天候の見通し 7月10日~8月9日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 7月~9月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台) | ・「ひとめぼれ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。県のオリジナル品種である「飯沼のしずく」が、耐寒性・耐病性に優れていることから増加傾向となっている。 |
| | (生育) | | ・斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。 (北東北) (農林水産省 7月7日付) | |
| 宮城 | | 【7月1日現在】 (県内)平均気温は高めに推移し、日照時間は平年より多かったことから、生育は平年よりやや進んでいる。(宮城県 7月2日付) (仙台)「ひとめぼれ」の草丈及び茎数は前年及び平年を上回る生育となっている。(宮城県仙台管区気象台) (大崎)生育は順調に進んでおり、草丈は平年を上回り、茎数は調査ほ場にもよるが概ね平年並。葉数も概ね平年並~平年を上回るほ場が多く、移穂時期の早いものでは幼穂が確認されている。(宮城県大崎農業改良普及センター 7月5日付) (美里)多くのほ場で有効茎数を確保しているとみられる。(宮城県美里農業改良普及センター 7月2日付) (栗原)「ひとめぼれ」では、草丈は平年並~やや長い、茎数は平年並~やや少ない、葉数は少なく、葉色はやや淡くなっているが、生育は順調に進んでいる。(宮城県栗原農業改良普及センター 7月6日付) (石巻)「ひとめぼれ」の草丈は57.3cm(平年比115%)と平年に比べ長く、1㎡当たり茎数は598本(平年比96%)とやや少なく、主穂数は5.5枚(平年差-0.9枚)。「ササニシキ」の草丈は48.0cm(平年比104%)と平年に比べやや長く、1㎡当たり茎数は628本(平年比110%)と平年に比べ多い。(宮城県石巻農業改良普及センター 7月2日付) (気仙沼)管内の生育調査ほ場の生育は、草丈が平年より長く、㎡当たり茎数が平年並み~平年よりやや少なく、葉色値が平年より低くなっており、葉色は淡いものの概ね目標とする生育量となっている。(宮城県気仙沼農業改良普及センターほか 7月2日付) (大河原)平年に比べて、草丈はやや長い、茎数はやや少ない、葉数は平年並。(大河原農業改良普及センター 7月1日付) | 【向こう1か月の天候の見通し 7月10日~8月9日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 7月~9月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台) | ・「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっており、近年、収量水準の高い「飯沼のしずく」が増加傾向にあり令和3年産も同様の傾向にある。 |
| | (生育) | | ・斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。 (北東北) (農林水産省 7月7日付) | |
| 秋田 | | ・各地域振興局の水稲定点調査によると、6月25日現在、あきたこまちの葉数は8.9葉(平年差+0.3葉)、茎数は㎡当たり388本(平年比94%)だった。(秋田県病害虫防除所 6月29日) (由利) (7月5日調査) 草丈は54.0cmで平年より長く(平年比110%)、㎡あたり茎数は557本で平年よりやや多い(平年比102%)。中平じが続いているが、幼穂形成期に入っている箇所もある。(7月9日付) (鹿角) (7月5日調査) 草丈は46.8cm(平年比96%)と短く、茎数は655本/㎡(平年比102%)とやや多く、葉数は9.9葉(平年10.0葉)と平年並。(7月8日付) (秋田) (7月5日調査)「あきたこまち」の生育は草丈が51.3cm(平年比104%)、茎数が502本/㎡(平年比97%)、葉数が10.2葉(平年比+0.2葉)となっている。(7月9日付) (山本) (7月5日調査) 草丈が53.3cm(平年比108%)、茎数が547本/㎡(平年比102%)、葉数が10.6(平年+0.6)。(7月9日付) (雄勝) 草丈はやや長く、葉色はやや濃く推移している。生育は平年より3日程度早まっている。(7月2日付) (秋田県農林政策課) | 【向こう1か月の天候の見通し 7月10日~8月9日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 7月~9月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台) | ・「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。 |
| | (生育) | | ・斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。 (北東北) (農林水産省 7月7日付) | |
| 山形 | | 【7月8日現在】 ・「雪若丸」生育は、指標値に比べ、草丈と葉数は並、茎数は多く、葉色は濃くなっている。農業総合研究センターの調査では、出穂期は早い予想。(山形おいしき極める1米づくりプロジェクト本部 7月8日付) ・平地部「はらぬき」の生育は、平年と比較して、草丈はやや長く、茎数はやや多く、葉数及び葉色は並となっている。農業総合研究センターの調査によると、出穂期は全般的にやや早い~早い予想。 ・山形おいしき極める1米づくりプロジェクト本部 7月8日付) (農上) 出穂期は、ほぼ平年並の見込み(農上総合支庁農業技術普及課 7月5日付) (北村山)管内の「つや姫」の生育は、葉数は指標よりもやや遅れているが、概ね平年並。出穂期は平年並と予想される。茎数も指標を確保している。(北村山農業技術普及課 7月2日付) (東南置駒) 出穂は平年並み~やや早い予想。(山形おいしき極める1米づくりプロジェクト置駒地域本部実践班 7月5日付) (鶴岡田川)「雪若丸(6月30日現在)」普及課調査圃場の生育は指標を超え、十分な生育量を確保している。(庄内総合支庁 農業技術普及課 7月2日付) (村山) (6月30日現在)「つや姫」「雪若丸」とも平年値(指標値)に比べ、草丈はやや短く、茎数は「つや姫」では平年並、「雪若丸」では多く、葉数は並。(村山総合支庁農業技術普及課 7月2日付) | 【向こう1か月の天候の見通し 7月10日~8月9日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 7月~9月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台) | ・「はえぬき」及び「つや姫」を中心とする品種構成で、近年、収量水準の高い「天つづき」が増加傾向にある。 |
| | (生育) | | ・斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。 (北東北) (農林水産省 7月7日付) | |
| 福島 | | 【6月29日現在】 (農業総合センターの作柄解析試験コシヒカリの生育調査) ・主幹出葉からみた生育は、本部と浜地域では6日早く、会津では4日早くなっている。 (注) 調査場所は、本部が郡山市、会津地域が会津藩下町、浜地域が相馬市。 (福島県 7月8日付) | 【向こう1か月の天候の見通し 7月10日~8月9日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 7月~9月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台) | ・「コシヒカリ」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成で、近年、収量水準の高い「天つづき」が増加傾向となっている。 |
| | (生育) | | ・綿葉枯病の発生が「多い」と予想される。(関東) (農林水産省 7月7日付) | |
| 茨城 | | 【水戸】(6月29日現在 対平年遅速) (茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 7月1日付) (4月30日移植)「あきたこまち」2日早い、「コシヒカリ」2日早い、「ふくまるSL」1日早い。 (5月10日移植)「コシヒカリ」平年並。 ・幼穂長から予測される出穂期は「あきたこまち」で7月14日、「ふくまるSL」で7月16日、「コシヒカリ」で7月24日である。 (龍ヶ崎) (6月25日現在 対平年遅速) (茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 7月2日付) (4月27日移植)「あきたこまち」2日遅い、「ふくまるSL」1日遅い、「コシヒカリ」平年並。 (5月7日移植)「コシヒカリ」1日早。 ・今後平年並に推移した場合、幼穂長から予測される出穂期は「あきたこまち」で7月13日頃、「ふくまるSL」で7月16日頃、「コシヒカリ」で7月23日頃である | 【向こう1か月の天候の見通し 7月10日~8月9日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁東京管区気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 7月~9月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁東京管区気象台) | ・「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成で、近年、収量水準の高い「あきたこまち」が増加傾向となっている。 |
| | (生育) | | ・綿葉枯病の発生が「多い」と予想される。(関東) (農林水産省 7月7日付) | |

| 生育状況等 | | | |
|-------|--|---|--|
| 栃木 | <p>【早稲栽培6月8日調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生育は、ほぼ前年並みであるが、地域によって差が大きい。 <p>(栃木県 6月10日付)</p> <p>(生育)</p> | <p>【向こう1か月の天候の見通し 7月10日～8月9日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間は、ほぼ平年の見込み。 (気象庁東京管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ前年並の見込み。 (気象庁東京管区気象台)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結実結病の発生が「多い」と予想される。(関東)(農林水産省 7月7日付) | <ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっている。なお、オリジナル品種「なすひかり」及び「とちぎの星」が増加傾向にある。 |
| 千葉 | <p>【6月25日現在】</p> <ul style="list-style-type: none"> 6月上中旬は、気温・日照ともに高く推移したことから、5月植えの「コシヒカリ」の生育が進んでいる。 4月20日に移植した「コシヒカリ」は6月20日頃(前年より2日早い)から幼穂形成期を迎えている。 5月1日に移植した「コシヒカリ」は6月24日頃(前年より4日早い)から幼穂形成期となる。 <p>(生育)</p> <p><生育進度(前年比)> 「ふさおとめ(4月20日植)」並、「ふさこがね(4月20日植)」並、「コシヒカリ(4月20日植)」並、「コシヒカリ(5月1日植)」やや早、「粒すけ(4月20日植)」並。 (千葉県 6月29日付)</p> | <p>【向こう1か月の天候の見通し 7月10日～8月9日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間は、ほぼ平年の見込み。 (気象庁東京管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ前年並の見込み。 (気象庁東京管区気象台)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結実結病の発生が「多い」と予想される。(関東)(農林水産省 7月7日付) | <ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」「ふさこがね」及び「ふさおとめ」を中心とする品種構成となっている。 |
| 新潟 | <p>【6月30日現在】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」の生育は、県全体では指標値に比べ、草丈は並、茎数はやや多い、葉数の進みは並、葉色は並。地域差が大きく、茎数が多いほ場や葉色が淡いほ場もみられる。 「新之助」は、草丈はやや短い、葉数の進み、茎数、葉色はともに指標値並の状況。(新潟県農林水産部 7月1日付) <p>【7月8日現在】</p> <p>(村上)「コシヒカリ」の出穂期は、前年に比べ2日程度早まる見込み。(村上農業普及指導センター 7月8日付) (新 潟)「コシヒカリ」は草丈、茎数、葉数、葉色とも指標値並の生育。中生、晩生とも出穂期は前年並の見込み。(新潟県農業普及指導センター 7月8日付) (三 条)生育は指標値並で順調。「コシヒカリ」の出穂期は前年並(三条農業普及指導センター 7月8日付) (魚 沼)「コシヒカリ」の出穂期は前年並と予想(魚沼農業普及指導センター 7月8日付) (十日町)「コシヒカリ」の生育は、草丈：やや短い、茎数：多い、葉数の進み：並。 (十日町)「コシヒカリ」の出穂期は前年並(十日町農業普及指導センターほか 7月8日付) (上 越)「コシヒカリ」の出穂期は前年並(9/2頃)、「こしいぶき」の出穂期は前年並(7/26頃)と見込まれる。(上越農業普及指導センター 7月8日付) (糸魚川)調査ほ場の平均では、草丈は短、茎数、葉数、葉色は並。(糸魚川農業普及指導センター 7月8日付)</p> <p>(長 岡) (7月5日現在) 出穂期は、前年より1日早く、前年並の予想。(長岡農業普及指導センター 7月8日付) (柏 崎) (6月30日現在) 全体的に生育は指標値と概ね同程度となっている。本年の出穂期は前年並みと予想されている。(柏崎農業普及指導センター 7月5日付)</p> <p>(生育)</p> | <p>【向こう1か月の天候の見通し 7月10日～8月9日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は前年並が高い見込み。 降水量、日照時間は、ほぼ前年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ前年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニカメイガ、いもち病、斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。(北陸)(農林水産省 7月7日付) | <ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」及び「こしいぶき」を中心とする品種構成で、近年「コシヒカリ」が減少し、収量水準の高い「ゆきん子舞」、「つきあかり」及び「みずほの輝き」が増加傾向にある。また、県では新品種「新之助」(晩生種)の作付拡大を推奨している。 |
| 富山 | <p>【本田での生育状況】(7月6日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コシヒカリ 前年と比べ、草丈、茎数及び葉色は並、葉齢は遅れている。葉齢を揃えて比較すると、草丈はやや長く、茎数、葉色は前年並となっている。今後、気温が前年並に推移すると、出穂期は前年より1日遅い8月3日頃と見込まれる。 ・てんかく 出穂期は、7月19日頃と見込まれる。 ・てんこもり 前年と比べ、草丈はやや短く、茎数、葉色及び葉齢は並となっている。葉齢を揃えて比較すると、草丈はやや短く、茎数、葉色は前年並となっている。今後、気温が前年並に推移すると、出穂期は、前年より1日遅い8月5日頃と見込まれる。 ・富富富 近年と比べて、草丈、葉色は並、茎数はやや少なく、葉齢はかなり遅れている。葉齢を揃えて比較すると、草丈はやや長く、茎数はやや少なく、葉色はやや淡くなっている。今後、気温が前年並に推移すると、出穂期は、前年より1日遅い8月5日頃と見込まれる。 <p>(富山県 7月6日付)</p> <p>(生育)</p> | <p>【向こう1か月の天候の見通し 7月10日～8月9日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は前年並が高い見込み。 降水量、日照時間は、ほぼ前年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ前年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニカメイガ、いもち病、斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。(北陸)(農林水産省 7月7日付) | <ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっているもの、近年高温乾燥でも品質が安定している「てんこもり」及び「富富富」が増加傾向にある。 |
| 石川 | <p>【6月28日調査】 (出穂期予想)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ゆめみつほ」の出穂期予想は、加賀地域で7月17～21日頃と前年に比べ並～1日程度遅く、能登地域(羽咋～中能登)は7月23日頃と前年並と見込まれる。また、能登地域(奥能登～珠洲)「の能登ひかり」の出穂期は、7月23～25日頃と近年に比べ～1日程度早くなる見込まれる。 ・(葉齢展開) 「コシヒカリ」生育の遅速は、前年に比べ1～2日程度遅いと見込まれる。 ・「ひやくまん穀」生育の遅速は、加賀地域では近年に比べ～3日程度遅く、能登地域では近年並と見込まれる。 <p>(石川県農林総合研究センター 6月29日付)</p> <p>(生育)</p> | <p>【向こう1か月の天候の見通し 7月10日～8月9日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は前年並が高い見込み。 降水量、日照時間は、ほぼ前年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ前年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニカメイガ、いもち病、斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。(北陸)(農林水産省 7月7日付) | <ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」及び「ゆめみつほ」を中心とする品種構成であるが、近年県オリジナル新品種の「ひやくまん穀」が増加傾向にある。 |
| 福井 | <p>【7月1日調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> 5月2日移植のハナエチゼンが6月28日に幼穂形成期となった。 <p>(福井県ほか 7月2日付)</p> <p>(生育)</p> | <p>【向こう1か月の天候の見通し 7月10日～8月9日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は前年並が高い見込み。 降水量、日照時間は、ほぼ前年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ前年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニカメイガ、いもち病、斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。(北陸)(農林水産省 7月7日付) | <ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」及び「ハナエチゼン」を中心とする品種構成である。なお新品種である「いちほまれ」が増加傾向にある。 |
| 長野 | <p>【農業試験場八重森圃場(標高348m)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移植後40日の生育は、いずれの品種(あきたこまち、コシヒカリ、風さやか)も主稈葉数がやや遅れ、草丈、茎数は前年並である。(長野県農業試験場 6月30日付) <p>【農業試験場原村試験地(標高1,017m)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移植後40日の生育は、いずれの品種(きらりん、ゆめしなの、あきたこまち)も主稈葉数は前年並、草丈はやや遅れ、茎数は少ない傾向である。前年対比は移植後30日時点と概ね同等であるが、「きらりん」、「あきたこまち」の茎数はやや増加傾向である。(長野県農業試験場 7月7日付) <p>【伊那米総合試験地(伊那市美葉)】(7月2日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊那米試験地の田植え50日後の生育状況は、「コシヒカリ」で草丈は前年より短く(92%)、茎数は前年より多く(107%)となっている。酒米の茎数は前年並だが、他の品種は「コシヒカリ」と同様の傾向。(上伊那農業農村支援センター 7月2日付) <p>【安曇野市豊科 標高550m 5月15日植(稚苗)「コシヒカリ」「あきたこまち」】(7月1日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水稲の生育は「あきたこまち」「コシヒカリ」とも概ね前年並みの生育進度と思われる。(松本農業農村支援センター 7月1日付) <p>(生育)</p> | <p>【向こう1か月の天候の見通し 7月10日～8月9日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間は、ほぼ平年の見込み。 (気象庁東京管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ前年並の見込み。 (気象庁東京管区気象台)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はない。県オリジナル品種として「風さやか」の導入を推進している。 |
| 滋賀 | <p>【農業技術振興センター水稲作況調査(5月10日移植)】(みずかがみ、コシヒカリ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「みずかがみ」、「コシヒカリ」とも、茎数は6月中旬までは前年より少なかったが、6月下旬以降は前年並に推移している。 ・幼穂形成期は、「みずかがみ」は7月1日、「コシヒカリ」は7月5日と、商品種とも前年より2日遅く、「みずかがみ」では、7月24日頃に出穂期を迎える見込み。 ・県内ほ場では、移植日やほ場条件による生育に差は見られるものの、概ね前年並に幼穂形成期を迎えている。 <p>(滋賀県農業技術振興センター 7月9日付)</p> <p>(生育)</p> | <p>【向こう1か月の天候の見通し 7月10日～8月9日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間は、ほぼ前年並の見込み。(気象庁大阪管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 近畿地方の向こう3か月の平均気温は前年並が高い見込み。 降水量は、ほぼ前年並の見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トビイロウンカの発生が「多い」と予想される。(近畿)(農林水産省 7月7日付) | <ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」、「クヌヒカリ」、「日本晴」及び「みずかがみ」を中心とする品種構成である。近年、高温多湿性に優れた「みずかがみ」の作付が推進されている。 |

| 生育状況等 | | | |
|-------|--|--|--|
| 兵 庫 | <p>【6月29日現在】</p> <p>(県北)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コシヒカリの葉齢の進展は平年より遅く、草丈はやや長く、茎数はかなり少ない。 ・遅く挿入では葉齢の進展は平年よりやや遅く、草丈はかなり長く、茎数は多い。 <p>(生育)</p> <p>(県北以外)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葉齢の進展は平年よりやや早く、草丈は平年並みからやや低い。 <p>(兵庫県 7月5日付)</p> | <p>【向こう1か月の天候の見通し 7月10日～8月9日】</p> <p>近畿地方の向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁大阪管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>中国地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁大阪管区気象台)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トビイロウンカの発生が「多い」と予想される。(近畿) (農林水産省 7月7日付) | <ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」「キヌヒカリ」及び「山田錦」を中心とする品種構成である。 |
| 岡 山 | <p>【6月21、22日巡回調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・極早生種の生育は概ね平年並である。 <p>(岡山県 6月30日付)</p> <p>(生育)</p> | <p>【向こう1か月の天候の見通し 7月10日～8月9日】</p> <p>中国地方の向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>中国地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁広島地方気象台)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・斑点米カメシの発生が「多い」と予想される。(中国) (農林水産省 7月7日付) | <ul style="list-style-type: none"> ・「アケボノ」、「ヒノヒカリ」、「あきたこまち」、「コシヒカリ」及び「きぬむすめ」を中心とする品種構成である。近年、「きぬむすめ」が増加傾向となっている。 |
| 広 島 | | <p>【向こう1か月の天候の見通し 7月10日～8月9日】</p> <p>中国地方の向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>中国地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁広島地方気象台)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・斑点米カメシの発生が「多い」と予想される。(中国) (農林水産省 7月7日付) | <ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」、「あきさかり」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。 |
| 愛 媛 | | <p>【向こう1か月の天候の見通し 7月10日～8月9日】</p> <p>四国地方の向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>四国地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁高松地方気象台)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イネミズゾウムシ、綿葉枯病、いもち病の発生が「多い」と予想される。(四国) (農林水産省 6月9日付) | <ul style="list-style-type: none"> ・「ヒノヒカリ」「コシヒカリ」「あきたこまち」及び「にこまる」を中心とする品種構成に大きな変化はない。 |
| 高 知 | <p>(早期稲)</p> <p>6月上旬は比較的天候に恵まれていたため生育は概ね順調であった。しかしながら、4月下旬～5月上旬の低温や5月中旬に日照時間が少なかった事などから、県中央部や東部では分けつ数やや少ない傾向であり、収量への影響が懸念されている。</p> <p>(普通期稲)</p> <p>梅雨の影響などで定植作業が遅れたり、一部では生育不良や障害の発生、苗いもちにより植え直しをしたほ場があるため生育にばらつきが見られるが、全般的には生育は概ね順調である。</p> <p>(高知県病害虫防除所 7月6日付)</p> <p>(生育)</p> | <p>【向こう1か月の天候の見通し 7月10日～8月9日】</p> <p>四国地方の向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>四国地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁高松地方気象台)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イネミズゾウムシ、綿葉枯病、いもち病の発生が「多い」と予想される。(四国) (農林水産省 6月9日付) | <ul style="list-style-type: none"> ・早期栽培は「コシヒカリ」、普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。 |
| 福 岡 | <p>【7月1日現在】</p> <p>(1) 早生水稲(夢つくし、コシヒカリ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、幼穂形成期～穂ばらみ期で、草丈はやや高く、茎数はやや少ない。病害虫は、ウンカ類の発生がやや多い。 ・移植後の低温の影響で、初期生育はやや遅れていたが、5月中旬からの高温により、生育は回復しており、出穂期は平年並の7月8～15日頃の見込み。 <p>(2) 普通期稲(夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田植えの最盛期は、「夢つくし」が6月5～12日頃、「元気つくし」が6月20日頃、「ヒノヒカリ」が6月26日頃であり、麦の収穫が早かったことから平年よりやや早く進んでいる。苗の活着は概ね良好で、生育は順調だが、一部では、移植後に降雨が少なく、ほ場の乾燥も見られる。 <p>(福岡県農林業総合試験場 7月1日付)</p> <p>(生育)</p> | <p>【向こう1か月の天候の見通し 7月10日～8月9日】</p> <p>九州北部地方の向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>九州北部地方の3か月の気温は平年並か高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁福岡管区気象台)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・「ヒノヒカリ」「夢つくし」及び「元気つくし」を中心とする品種構成であるが、「ヒノヒカリ」が減少傾向。「元気つくし」が増加傾向となっている。なお、県では今後新品種「爽りつくし」の拡大を推奨している。 |
| 熊 本 | | <p>【向こう1か月の天候の見通し 7月10日～8月9日】</p> <p>九州北部地方の向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>九州北部地方の3か月の気温は平年並か高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁福岡管区気象台)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・「ヒノヒカリ」「森のくまきん」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成に、大きな変化はない。 |
| 宮 崎 | <p>【作物の生育状況 (6月中旬)】</p> <p>(生育)</p> <p>早期水稲は穂ばらみ期、普通期水稲は移植前後。(宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 6月24日)</p> | <p>【向こう1か月の天候の見通し 7月10日～8月9日】</p> <p>九州南部地方の向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>九州南部地方の向こう3か月の気温は平年並か高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁鹿児島地方気象台)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「み系358」への作付誘導が進められている。 |
| 鹿 児 島 | | <p>【向こう1か月の天候の見通し 7月10日～8月9日】</p> <p>九州南部地方の向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>九州南部地方の向こう3か月の気温は平年並か高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁鹿児島地方気象台)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・早期栽培は「コシヒカリ」、普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。近年、早期栽培において収量水準の高い「なつほのか」が増加傾向であり、「コシヒカリ」との価格差も小さいことから今後移行が進むことが予想される。 |

注1：国及び地方自治体、出先機関等がホームページで公表している資料を米穀機構情報部で取り纏め。
注2：令和3年7月9日 14時時点での取り纏め。
注3：更新箇所は赤字で表している。

引用資料:

農作物の生育状況 7月1日現在(北海道 7月7日)、
農作物生育状況 7月1日現在(北海道空知総合振興局 7月7日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道石狩振興局 7月7日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道後志総合振興局 7月7日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道胆振総合振興局 7月7日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道日高振興局 7月7日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道渡島総合振興局 7月7日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道檜山振興局 7月7日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道上川総合振興局 7月7日)、
農作物生育状況調査の概要 令和3年7月1日現在(北海道留萌振興局 7月7日)、
農作物の生育と農作業の進捗状況 7月1日現在(北海道オホーツク総合振興局 7月7日)、
稲作生産情報第5号(青森県 7月5日)、
農作物技術情報第4号要約(岩手県) (6月24日)、
令和3年産水稲の生育状況について(7月1日現在)(宮城県 7月2日)、
令和3年産仙南稲作情報(第3号)(大河原農業改良普及センター 7月1日)、
仙台稲作情報2021(第5号)(宮城県仙台農業改良普及センター 7月2日)、
令和3年産美里地区の稲作情報第5号(宮城県美里農業改良普及センター 7月2日)、
令和3年産気仙沼・南三陸稲作情報第6号(宮城県気仙沼農業改良普及センターほか 7月2日)、
令和3年産大崎稲作情報第5号(宮城県大崎農業改良普及センター 7月5日)、
稲作情報(vol.4)(宮城県石巻農業改良普及センター 7月2日)、
栗原の稲作通信令和3年第4号(宮城県栗原農業改良普及センター 7月6日)、
令和3年度農作物病害虫発生予察情報発生予報第3号(7月予報)(秋田県病害虫防除所 6月29日)、
生育状況報告(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」<http://www.e-komachi.jp/> 7月9日閲覧)、
雪若丸技術情報No.6(山形おいしさを極める! 米づくりプロジェクト本部 7月8日)、
米づくり技術情報第7号(山形おいしさを極める! 米づくりプロジェクト本部 7月8日)、
つや姫より穂肥編(北村山農業技術普及課 7月2日)、
つや姫雪若丸通信第3号(山形おいしさを極める! 米づくりプロジェクト村山地域本部ほか 7月2日)、
雪若丸情報穂肥診断編(庄内総合支庁農業技術普及課 7月2日)、
稲作だより第9号(最上総合支庁農業技術普及課 7月5日)、
東南おきたま米づくり情報No.8(山形おいしさを極める! 米づくりプロジェクト置賜農業技術普及課 7月5日)、
主要な農作物の生育情報令和3年度第4号(福島県農林水産部 7月8日)、
農研速報(茨城県農業総合センター農業研究所 7月1日)、
農研速報(茨城県農業総合センター農業研究所 7月2日)、
令和3(2021)年度水稲生育診断予測事業速報No.2(栃木県 6月10日)、
水稲の生育と当面の対策第4報(千葉県 6月29日)、
水稲の生育と今後の管理対策(第4号)(新潟県 7月1日)、
岩船米生育速報(7月8日現在)(村上農普及指導センター 7月8日)、
コンヒカリ生育情報第5号(魚沼農業普及指導センター 7月8日)、
稲作速報No.5(新潟農業普及指導センター 7月8日)、
稲作情報No.5(長岡農業普及指導センター 7月8日)、
FAX稲作情報No.7(三条農業普及指導センター 7月8日)、
十日町地域稲作生育速報(令和3年7月8日)(十日町農業普及指導センターほか 7月8日)、
柏崎・刈羽地域稲作だより(共通版No.5)(柏崎地域農業振興協議会 7月5日)、
コンヒカリこしいぶき生育速報No.5(上越農業普及指導センター 7月8日)、
令和3年度糸魚川売れる米づくりコンヒカリ生育情報No.5(糸魚川農業普及指導センター 7月8日)、
TACS情報第7号(富山県 7月6日)、
令和3年産水稲の生育状況と今後の対策(水稲生育診断技術確立調査-6号)(石川県農林総合研究センター 6月29日)、
稲作情報No.9(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月2日)、
令和3年作物技術普及情報第11号(松本農業農村支援センター 7月1日)、
農業試験場水稲試験圃の生育状況(令和3年)(長野県農業試験場 6月30日)、
水稲高標高試験圃の生育状況(令和3年)(長野県農業試験場 7月2日)、
伊那米総合試験地水稲奨励品種決定は生育状況(上伊那農業農村支援センター 7月2日)、
令和3年度水稲生育診断情報No.3(滋賀県農業技術振興センター 7月9日)、
令和3年度兵庫県農業気象技術情報No.3(7月情報)(兵庫県 7月5日)、
令和3年度病害虫発生予報第4号(岡山県病害虫防除所 6月30日)、
病害虫発生予察情報について(高知県病害虫防除所 7月6日)、
福岡県の主な農産物の生産情報(福岡県 7月1日現在)、
令和3年度病害虫発生予報第3号(宮崎県病害虫防除所・肥料検査センター 6月24日)、

北海道地方方向こう1か月の天候の見通し(7月8日札幌管区気象台)、東北地方方向こう1か月の天候の見通し(7月8日仙台管区気象台)、関東甲信地方方向こう1か月の天候の見通し(7月8日気象庁)、
北陸地方方向こう1か月の天候の見通し(7月8日新潟地方気象台)、近畿地方方向こう1か月の天候の見通し(7月8日大阪管区気象台)、中国地方方向こう1か月の天候の見通し(7月8日広島地方気象台)、
四国地方方向こう1か月の天候の見通し(7月8日高松地方気象台)、九州北部地方方向こう1か月の天候の見通し(7月8日福岡管区気象台)、
九州南部・奄美地方方向こう1か月の天候の見通し(7月8日鹿児島地方気象台)、

北海道地方方向こう3か月の天候の見通し(6月25日札幌管区気象台)、東北地方方向こう3か月の天候の見通し(6月25日仙台管区気象台)、関東甲信地方方向こう3か月の天候の見通し(6月25日気象庁)、
北陸地方方向こう3か月の天候の見通し(6月25日新潟地方気象台)、近畿地方方向こう3か月の天候の見通し(6月25日大阪管区気象台)、中国地方方向こう3か月の天候の見通し(6月25日広島地方気象台)、
四国地方方向こう3か月の天候の見通し(6月25日高松地方気象台)、九州北部地方方向こう3か月の天候の見通し(6月25日福岡管区気象台)、
九州南部・奄美地方方向こう3か月の天候の見通し(6月25日鹿児島地方気象台)、

令和3年度病害虫発生予報第4号(農林水産省 7月7日)
令和3年産水稲の10a当たり平均収量に係る生産事情(都道府県別)(農林水産省 3月23日)